

平成29年度第2回大井町子ども・子育て会議概要

日 時 平成30年2月21日（水）13時30分～15時30分
場 所 大井町保健福祉センター 2階 第1会議室
出席者 西山委員 小島委員 下澤委員 富岡委員 吉田委員（吉岡委員代理）
石森委員 石井委員 山本委員 稲葉委員
欠席者 鈴木委員 星委員 堀内委員 有森委員
事務局 橋本子育て健康課長 石井主幹 大野副主幹 森谷副主幹 市川主査

1 開 会

ただいまから平成29年度第2回大井町子ども・子育て会議を開催する。会議資料及び会議概要については大井町のホームページに掲載するのでよろしく願います。開催にあたり、子育て健康課長よりあいさつする。

2 あいさつ（子育て健康課長）

子ども・子育て支援制度が平成27年度から始まり、3年が終わろうとしている。

これまで計画に沿って推進してきたが、今年度においては児童コミュニティクラブの対象学年を小学校5年生まで拡大、そして長期休暇の開所時間を30分早め、7時30分からとし、保護者や児童に対する利便性の向上に努めた。

またタウンニュースにも掲載されたが、本日の議題にもなっている病児病後児保育について上郡5町と広域連携し、本年10月に開催する運びとなっている。来年度の30年度当初予算について議会の承認があつてというかたちになるが、そういうことで現在進んでいる。開成町の社会福祉法人が事業実施したい旨の申し出があり、5町で願うことになっている。

また来年度の当初予算については、これから議会で審議していただくが、子ども子育て関連では大井第二幼稚園のトイレ改修、児童コミュニティクラブの対象学年を6年生までに拡大、そして子育て世代に役立つ情報を掲載した子育てガイドブックを作成する予定である。

本日は計画の中間見直し、そして病児保育事業の実施について議題とさせていただいた。皆さんからの忌憚のないご意見を願うして、簡単ではあるが挨拶とさせていただきます。

3 事務局より

※資料確認

※西山会長に議事の進行を依頼

【会長あいさつ】

子ども・子育て支援計画が平成27年からスタートし、本年は中間年にあたるということで、中間見直しがメインテーマであると思っている。

この子ども・子育てに関しては、いままでは日本の福祉は高齢者中心であったが、よ

うやく子ども全体にスポットが当てられて制度が充実してきたように思う。ただ、子どもを取り巻く現状には非常に厳しいものがあり、出生数は私が子どものころは確か年間200万人くらいだったと思うが、いまはとうとう100万人を切ってしまった、子どもの貧困問題もあり、7人に1人の子どもが貧困であるとか、それから虐待問題、保護者による児童虐待は、児童相談所が取り扱っただけのものだけでも年間12万件に及ぶとか、文科省のデータでは全国のいじめの件数が35万件になったとか、一方において非常に暗い側面も持っている。

この子ども・子育て会議そのものは大井町に住んでいる子どもの福祉、それから保護者の方、ご家族の方、ひいては町民全体へ広がって、子どもを健全に育てる環境が充実していくことを目指しているが、いろいろな側面があるということで、ここにお集まりいただいた方々は様々な職位や専門領域を代表されている方であり、ぜひ忌憚のないご意見を頂ければありがたい。

本日は中間年の評価ということで、数値的なことが中心になるかとは思いますが、同時に質的なものがどうかということも頭におきながら、いろいろとご意見を頂ければありがたい。

4 議題（1）大井町子ども・子育て事業支援計画中間見直しについて

※「資料1」「資料2」「参考資料」に基づき事務局から説明

【会長】

今の説明に対し、質問・意見どちらでも構わないので自由に発言いただきたい。

まず、私から何点か質問させて頂く。放課後児童健全育成事業だが、前倒しでの実施は今までなかったことで素晴らしいことであり、事務局に感謝したい。現在の状況はどうなのか。5年生6年生の上級生の利用はあるのか。また待機の子がいるかどうかを確認したい。

【事務局】

放課後児童健全育成事業に関して、現在登録されている児童の数は昨日現在で、おおい児童コミュニティクラブが80人、かみおおい児童コミュニティクラブが54人である。高学年の割合だが、おおいは、1年生28人、2年生23人、3年生14人、4年生9人、5年生6人。かみおおいは、1年生13人、2年生10人、3年生24人、4年生5人、5年生2人。この状況からして前倒しで小学校6年生の受け入れをしても、定められた定数を超えることはないだろうと見込んでいる。

【会長】

様々な事業を展開していく中で、保育士等の専門職の配置が必要だと思うが、十分確保して満たされているか。要するに子ども子育て支援を支える人材の問題はいかがか。

【事務局】

保育士不足は待機児童と同じくらい世間を賑わせている問題だが、大井町でも、募集に対して応募はゼロ人ということが多。保育士がいないと子どもの入所も難しくなってくるという悪循環がある。保育士の魅力をいかに伝えるかとか、処遇の問題など、そのあたりが課題になっているが、なかなかうまく進まない状況である。この件について

は都市部と同じような悩みを抱えている。

【会長】

足りない部分については具体的にどのようにフォローしているのか。

【事務局】

たとえば、クラスを持って継続的に子どもを見られるような勤務条件の保育士を採用したいという募集に応募がなかった場合は、短時間勤務の保育士とうまく調整をしながらなんとかやっているような状況になっている。今日は大井保育園と栄光愛児園の先生も出席されているので、各状況を伺いたい。

【委員】

それぞれの年齢別のクラスに対して決められた人数は基準としてあり、目に見えやすい分かりやすい部分だが、実際にその数の問題も、新たな入所児童との兼ね合いもある。

またさらに目に見えない部分で、子どもの状況に多様な意味で配慮が必要だったり、現実に厳しい部分があり、本来ならばニーズが多くあるのだろうが、待ってもらった現況は少なからず続いていくと思う。加えて、当園はそれなりに年数も経っているので、ソフト面とハードの面と両方を近いうちに考えていく必要がある。

【委員】

職員の保育士は、早番・遅番制度があるので、ひとつの学年のクラスに必ず担任はいるが、シフトの関係で合同保育が出てくる。そういった人数確保は、きっとどの園でも同じようやっているのではないかと思う。

【会長】

人材不足の問題は、私も職員の養成に携わっているが、子ども子育て支援には全市町村が取り組んでいるおり、それだけ職員の数を配置せねばならず、保育所だとか、要保護児童が入所している児童養護施設だと、新卒でもほとんど行く保育士がいないという状況がある。現実問題、一部、定員が50名のところを40名にして運営ができないというような現実もできてしまっている。これは高齢福祉も同様で、介護人材が非常に少なく、専門の養成学校でも数人しか学生を募集していない状況もある。施設だけはどんどん増えていき、ひずみが出始めている。素晴らしい計画があっても、それを具体的に誰がどう支えていくのかも絶えず意識していかないと、生きてこないと思う。

ほかに質問や意見はあるか。

【委員】

(4) 地域子ども・子育て支援事業の、ファミサポ等に関連する子育て支援センターについてだが、保育園もこちらと少なからず関わりがあり、細かい数値については説明のとおりであると思うが、課題の中で事務局が挙げられたもので、もちろん、広報などで今までも十分にPRがされてきたと思うが、場所があまりよくなく、例えばこの役場周辺に移せないか。役場周辺にはいろいろ施設があり、子育て支援センターがここにあると、いろいろな人がここに来る中で目に入る。ここにあるのかと、知らず知らずの内に気付く部分もあるのかなと思う。立地等の課題は少なからずあって、新しい場所を考えるととなるとそれに絡むいろいろな案件はあると思うが、この近辺あたりに施設がくると、保育園に通う方の中にも、家庭の中で、保護者として育児等がなかなかうまくいかないという方もいるので、ニーズがかなりあるのではないかと、最近の子どもたちの様

子を見て思う。もっと活かせるような場所であると、今まで以上に利用する家庭があるのではないかと。私自身の経験で言うと、かつては自分の親も同居で大きな家族であった。それに対して、核家族化してくる中で、お父さんが働きに行って、そういう風にとらえるのはいけないのだが、お母さんが基本的に育児を行う、親と子どもとの中で、親になっているのだからしっかりしてくれよと言いたい部分はあるけれども、現実に変なところがあるのだろうなど。そういう時に、この子育て支援の施設を利用できるような場所があると、とても助かるのではないかと思う。

可能であれば、便利な場所が確保できて、より足を運びやすいところにあると、より利用価値が出てくるのではないかと思う。

【会長】

先ほどいろいろと説明あった中で、1号認定・2号認定などの数は実績から具体的に出てきているものだと思うが、地域子育て支援拠点事業やファミリーサポートセンター事業は、どこでやっているか、参加しやすい場所なのか、あるいは気楽に皆が参加できるような雰囲気があるのか、そういったところは実績値だけでは判断できないのではないか。利用する親のニーズに沿っているのかどうか、質的なところはどうか、そこも併せて検討していく必要があるのではないか。今の富岡委員の発言について、事務局からはいかがか。

【事務局】

現在の子育て支援センターの立地条件について、そういった意見はいろいろと聞いている。

区画整理の中で、それがいま簡単にできるかということ、町の財政状況等もあり、そこまで現在踏み込めるかということと厳しい状況がある。現在ある施設での利用と、その中身を充実させて利用者を増やすというかたちで現時点では考えている。

【会長】

他の方でいかがか。今の中間見直しの説明について、また平成30年度、31年度の見直し案ということで示された数値について、会議においては承認ということによろしいか。

それでは平成30年度、31年度の数値について、委員の皆さま了解ということでもとめさせて頂く。

それでは議題3（2）足柄上郡病児保育事業の実施について、事務局から説明をお願いします。

5 議題2 足柄上郡病児保育事業の実施について

※「資料3」に基づき事務局から説明

【会長】

この事業については、早くから町長自らそういう事業を始めたいと言っていたが、実施してくれるところがなかなか見つからないということで、頓挫しては困っていたが、ようやくこぎつけて頂いた。実施するということは決まったわけだが、中身については固まっているわけではないので、意見があればお願いしたい。

【委員】

恥ずかしながら今回初めて知った。いつごろからこのような事業があり、また、近隣の様子はどうなのか。

【事務局】

病児保育については、子ども子育て支援制度が始まるタイミングに合わせてということで、以前からあったかもしれない。就労している保護者が、子どもが病気の時にどうしても仕事に行かなければいけないような状況があり、今回実施する運びとなった。計画にも掲載していた。

近隣では小田原の横田小児科が実施している。南足柄市が小田原市に委託するかたちで小田原市と南足柄市で実施している。秦野市も実施している。都市部では実施しているところが多いが、県西地域ではなかなか受けてくれる病院や保育園を探すのが厳しい状況だった。今回、医療法人を立ち上げるということが実施して頂けるということで、そのタイミングで5町でお願いしたという状況である。

【会長】

ほかにいかがか。では私から、利用定員6人となっており、1日平均とするとそれほどの数ではないかもしれないが、定員枠がいっぱいになった時、5町同時にやる中で、この枠の人数はどうなるのか。

【事務局】

小田原市の横田小児科では、平均で1日3～4人である。インフルエンザがはやる時期では利用申し込みが多い状況ではあるが、これを参考にして、上郡でも同様の規模とした。また必要な人材だが、3人の子どもに1人の保育士が必要なので、6人の枠が適切ではないかということで検討している。

【会長】

実際にオープンして、状況によって軌道修正するなどがあってもよいと思う。

他にはよろしいか。では議題(2)は以上とする。また確定したら報告をお願いする。

それでは最後、「4 その他」について、時間の関係もあるが、どの視点からでも結構であるのでご意見をいただきたい。

【委員】

病児保育について、インフルエンザ流行時に利用申し込みが増えるとのことだったが、インフルエンザの時に預けてもよいのか。預けられる病気と預けられない病気があるのか。

【事務局】

施設の対応による。たとえば個室対応ができる病児保育を実施するならば、隔離ができるのでインフルエンザにも対応できるかもしれない。今回立ち上げるところがどのようになるか詳しく決まっておらず、今の時点では何とも言えない。

【会長】

最後に皆さまに一言ずつご発言頂くことになっているので、よろしく願います。

石森委員から発言があったが、保護者としてはどうか。この子ども子育て支援制度がどれだけ浸透しているのか、実感として、助かっていると感じているのか、あるいは前とあまり変わらないか。情報がまた行き届いていない部分があるのか。

【委員】

はっきり言ってしまえばまだ全然浸透していない。このような会議があることが先に分かっていたら、園の保護者の総会で議題に挙げて意見を取り入れられる。またこのような場があるのだったら、もう少し早めに資料を頂き、園の保護者に意見を出して頂いて、それをまとめて代表で伝えるというかたちがとれば、たくさんの意見が出てよい。

【会長】

保育園・幼稚園の園長さんもいらっしゃっているので、是非園を中心として、保護者に情報が浸透するよう計らって頂ければありがたい。前回8月の会議の際、金子在住で相和幼稚園に通っている方で、卒園して小学生になった際、どの小学校を選択するかと考えたときに、相和小学校には送迎バスがないので現実的に下の小学校に通わせるようになる、という話があった。それについてはいかがか。

【委員】

相和幼稚園のバスの送迎は、いまは毎朝7人ずつくらいの利用があり、当初から小学校の送迎もやらないかという議論はされてきた。送迎バスがあるから幼稚園は通わせられるが、小学校にはないとなると毎朝送っていくのは大変という方が、それが選択肢になっているようであれば考えていかなければいけない。相和地域の子どもがもう既に激減している状況であり、その中で相和小学校を維持していかななくてはならない。調整区域ではなかなか人が住むに至らず、そのあたりも考えていかなければいけない。現在は園児バスを運行しているので、幼稚園の園児については送迎できるが、小学生を乗せるにあたり、何をもって園児と児童を一緒に送迎できるのか、そういうものがあるのか、そのあたりが現実的な話として出てくる。運用するにあたってどのような車を使うか、今、町で動かしているバスが利用できるかどうかなど、そのあたりを考えていくとかなり広い話になってくるので、それは課題として教育委員会の中でも持っている。今後の子どもの数を考えた時に、現実的な問題として考えていかなければならない。

【会長】

引き続き検討をお願いします。それから皆さんご存知かもしれないが、情報提供として申し上げたい。私は大井町の将来の子どものことを考えると、認定こども園という方向性も大きな選択肢ではないかと考えており、この会議の中でも何回か発言したが、前回発行の議会だよりで、鈴木議員が質問されていた。ごく簡単な記載しかないが「幼保一元化は当町にとって大事な施策だ。当町では幼保一元化を実施するのか。」という問いに対して町長が「幼保一元化のニーズは増えていて、必要性はあると考えている。現在は対応が難しいが、教育費の無償化を見据えた上で幼保一元化を検討する。」と答弁をしている。まだ具体的な検討はないが、それも視野に入れているということがはっきりと言葉で出ており、隣に大井幼稚園の写真があって「幼保一元化はいつになるのか」と書いてある。今後検討が始められることを願いたい。

それでは順番に発言をお願いします。どんな視点からでも結構なので、この会に要望すること、会のあり方に関すること、あるいは事務局に要望すること、また今、自身が仕事をされている中で抱えている子ども子育て関連の課題、そのようなことをひとつひとつ発言頂きたい。特に時間制限は設けないので、座っている順番でお願いしたい。

【委員】

先ほど何回か発言したので、率直な感想になるが、私は今年の4月に着任して、それまでは門外漢の全く違うところにおり、今回この子ども子育て支援会議に初めて出席するにあたり、前回の会議内容を見て、この会議及びこの中身について初めて知った状況である。

私たちの保育園は町立の保育園で、子育て健康課の直轄にあるので、日々毎日何らかのかたちで足を運んで連絡をとり、またお願いすることもあり、それは少なからず反映して頂いている。私としては今の体制で、今の保育園のハード・ソフト面のより一層の充実を一緒に関わりながらお願いしていければと思っている。

【委員】

先ほどの話にも関連してくるが、情報のひとつとして。認定こども園を考えたとき、これはだいぶ現実味を帯びてきており、かなり長い間検討しているが、建物の関係、それから人の関係で、方向性がなかなか定まりきらない。そんな中で、国の待機児童対策として、来年度から、国の方針として、細かいところはまだ示されていないが、2歳児の預かり保育を幼稚園でできるようにと打ち出されている。建物も人の問題も考えて、2歳児保育でうまくそのあたりが幼稚園に流れてくれれば、例えば隠れ待機児童といった問題にも多少は解決の糸口が見えてくるのではと思う。ただやはりそれについても人員はどうしても必要になってくるし、子どもが何人かいて、幼保の関係で、片方幼稚園に預けてもどうしても保育園に入れるという、かえって負担が大きくなってしまっている部分もあり、あるいは結局時間が延びないと働いている保護者からしてみると、枠はあっても使えないということも出てくるので、そのあたりも含めながら、認定こども園のことも含めて、考えていきたい。

【委員】

各自治会などで子ども支援事業として、地域で、福祉として、子ども支援事業を行っているが、それはその地域に住んでいる子どもが対象となり、また毎日行われている場所ではないので、やはり町でやっている子育て支援センター、その利用は必要だと思う。

先ほど、できれば町の建物がある中心の方へ移してほしいという意見があり、そういう意見は私も聞いてはいるが、先ほどの答えだとそれはなかなか難しいとなると、今の場所の利用者を増やすには何かを考えなければいけないということで、何年か前に車がないお母さんはどうやって来ればいいのかと言われ、もう少し離れたところにひとつ作るのかということで、金手の方で検討してみたが、一時期なもので、結局それで終わってしまった。今ある場所から遠いところに住んでいる子育て中のお母さんが、施設を利用できるような方法をこれから考えていただきたい。訪問させていただくと、とてもいいことをやっているの、これをこの町の方みんなが利用できればいいとつくづく感じているので、ぜひお願いしたい。

【委員】

先ほども話しにあったが、子ども子育て支援事業について、まわりの保護者にあまり浸透していないと思う。私は母子保健推進委員で、子どものいるお宅に訪問したりと、お母さん方と出会う機会があるので、私たちも少しずつそういう情報を伝えていかなければいけないと新ためて感じた。

【委員】

資料4の病児保育だが、せっかく学童が6年生になったので、これも6年生までにした方が働いている保護者は助かると思うので、今後検討して頂きたい。

【委員】

園の方でも、子育て支援についてはなかなか保護者には伝わりづらいと正直感じている。手紙などで情報をもらい、保護者の方に配布することはしているが、保護者も仕事をしている中で、様々な支援があるが仕事を休めなくて利用できない、という方もいて難しさを感じる。今日この回に参加し、いろいろなことを事業として始めていく途中であるということを、保護者の方々に伝えていければと思った。

【委員】

幼稚園と保育園との兼ね合いという話題がよく出てくる中で、どちらを選ぶか悩んでいる方もいると思うが、保護者の話で、幼稚園に入所希望で、また、自分の今の仕事の関係上、一番マッチするのが相和幼稚園だということを知る。相和幼稚園には送迎バスがあり、園児がたった14名しかいない中でバスを配置していただき、他の市町村と比べても大変素晴らしいことでありがたい。それから、配慮を要する児童について、子育て健康課とタイアップしてケース会議を開き、町と関係する幼小中だけではなく、小田原養護学校も参加したものとなっている。相和幼稚園にも民間に療育で通っている子どももいるので、そういう対応をしているが、幼稚園として、子育てに関して、行政が何かするのを待っているばかりの方針ではいけない。幼稚園も行政の一環だが、それだけではなく、保護者の意見も大事にして情報発信していかなければいけないと感じたが、その面で当園は十分な情報発信しているか省みた時に、もう少し力を入れなければいけないと感じた。PTA、保護者会と連携していかなければいけないと思った。

【委員】

初めてこの会に出席させていただき、分からないことばかりで、みなさんの話を聞いて勉強させてもらった。子どもの数が減っているということで、今日の資料からも、園児など子どもたちがだんだん少なくなっていくというのが分かった。その中で、幼稚園よりも保育園を希望される方が増えていると感じ、そこで待機児童の問題が出てくるのだと思った。私は相和地区在住だが、近所を見ると、いま幼稚園に行っている方が最後で、そのあとの子どもがいらないという状況で、どうしたらいいのかを皆で考えている。

先ほど下澤先生から話があったが、相和幼稚園に伺ったり、相和小学校に伺ったりしていると、子どもたちがとても落ち着いていて、先生方の指導が行き届いていると感じる。ただ、人数がだんだん少なくなってしまうところをどうしたらいいのか、保育園のニーズが増えているということ、また幼稚園での一時預かりが増えているということは、やはり働いている方が増えているからだと思う。そういう状況の中、上郡5町で病児保育事業が行われるのは、とてもよいことであると思った。

【会長】

貴重なご意見をいただき感謝する。これらを事務局の方でも受け止めて、今後活かしてもらえればと思う。また石森委員からあったように、制度ができて当事者が知らなければそれが活かしていることにはならない。保育園と幼稚園の園長もいらしているので、まず職員に周知していただき、今後の大井町の幼児教育保育のあり方を職員としてどう

考えていくかも議論していただきたい。そしてそこに通っている保護者の方に、こういう制度があると伝えていただきたい。難しければ事務局に説明を求めてもよいとは思いますが、こういったことをこの場の会議だけで終わりにたくないのご協力をお願いしたい。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

【事務局】

前回の会議後に、石森委員から学童のスポット利用ができないかという意見をいただいた。私たちでは学童の一時保育的な利用、そういう視点で考えたことがなかった。

疑問点やこういったことはできないのかなど、ご意見をいただきたい。実現できるかどうかは別の問題になってしまうが、次期の計画にも反映させていきたいので、どんな些細なことでも結構なので、意見をいただければと思う。よろしくをお願いしたい。

5 閉会

本日は、西山会長の会議進行のもと貴重な御意見等をいただき感謝申し上げます。以上をもって平成29年度第2回目の子ども・子育て会議を終了する。皆さまの忌憚のない意見をいただき感謝申し上げます。大いに参考にして、推進していきたいと思うので、今後ともよろしく願います。